

項目	【旧】:「附属施設物設計施工要領 第6編 [車両用防護施設編]」(平成27年6月)	【新】:平成28年2月 一部改訂	備考																																																										
	<p>3.4 防錆</p> <p>(1) 鋼製壁高欄の防錆は亜鉛めっき処理後、表面を塗装する。亜鉛めっきおよび塗装の仕様は表-3.4.1に示すとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">表-3.4.1 鋼製壁高欄の防錆仕様</p> <table border="1" data-bbox="320 520 1279 930"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部位</th> <th colspan="3">亜鉛めっき仕様</th> <th colspan="2">塗装仕様</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>付着量 (g/m²)</th> <th>表面処理</th> <th>種類</th> <th>膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本体外面</td> <td>溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき</td> <td>350</td> <td>脱脂, リン酸亜鉛処理</td> <td>熱硬化性ポリエステル樹脂塗装</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>本体内面</td> <td>溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき</td> <td>350</td> <td>脱脂, リン酸亜鉛処理</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>鋼製排水溝 内外面</td> <td>溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき</td> <td>350</td> <td>脱脂, リン酸亜鉛処理</td> <td>熱硬化性ナイロンコーティング (ナイロン12)</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 塗装範囲は図-2.5.2~2.5.5とする。塗色は「高架橋路線配色設計要領(平成24年4月)」に準じる。</p> <p>【解説】</p> <p>(1) 鋼製壁高欄の取替えは稀であり、長期の防食性が求められるため、亜鉛めっきは腐食耐久性の高い溶融亜鉛アルミニウムマグネシウム合金めっきを標準とした。 また、鋼製排水溝は首都高速道路の構造物の中で最も腐食環境の厳しい構造物の1つであることから、鋼製壁高欄部よりも耐久性の高い塗装を採用した。</p>	部位	亜鉛めっき仕様			塗装仕様		種類	付着量 (g/m ²)	表面処理	種類	膜厚 (μm)	本体外面	溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ポリエステル樹脂塗装	60	本体内面	溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	—	—	鋼製排水溝 内外面	溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ナイロンコーティング (ナイロン12)	300	<p>3.4 防錆</p> <p>(1) 鋼製壁高欄の防錆は亜鉛めっき処理後、表面を塗装する。亜鉛めっきおよび塗装の標準仕様は表-3.4.1に示すとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">表-3.4.1 鋼製壁高欄の防錆仕様</p> <table border="1" data-bbox="1492 504 2436 913"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部位</th> <th colspan="3">亜鉛めっき仕様</th> <th colspan="2">塗装仕様</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>付着量 (g/m²)</th> <th>表面処理</th> <th>種類</th> <th>膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本体外面</td> <td>溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき</td> <td>350</td> <td>脱脂, リン酸亜鉛処理</td> <td>熱硬化性ポリエステル樹脂塗装</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>本体内面</td> <td>溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき</td> <td>350</td> <td>脱脂, リン酸亜鉛処理</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>鋼製排水溝 内外面</td> <td>溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき</td> <td>350</td> <td>脱脂, リン酸亜鉛処理</td> <td>熱硬化性ナイロンコーティング (ナイロン12)</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 塗装範囲は図-2.5.2~2.5.5とする。塗色は「高架橋路線配色設計要領(平成24年4月)」に準じる。</p> <p>【解説】</p> <p>(1) 鋼製壁高欄の取替えは稀であり、長期の防食性が求められるため、亜鉛めっきは腐食耐久性の高い溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっきを標準とした。なお、溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっきとは、溶融亜鉛アルミニウムマグネシウム合金めっきを含んだ総称であり、5%程度のアルミニウム(マグネシウム又はその他の元素を添加してもよい)及び残部亜鉛からなるめっき浴においておこなった溶融亜鉛-アルミニウム合金めっきである。 亜鉛メッキの防食性は、塩水噴霧試験(JIS-Z-2371)において8,000時間経過時に素地から赤錆の発生がないものとする。なお、防食性に疑問が生じた場合には、塩水噴霧試験結果報告書の提出を求める場合がある。 また、鋼製排水溝は首都高速道路の構造物の中で最も腐食環境の厳しい構造物の1つであることから、鋼製壁高欄部よりも耐久性の高い塗装を採用すること。</p>	部位	亜鉛めっき仕様			塗装仕様		種類	付着量 (g/m ²)	表面処理	種類	膜厚 (μm)	本体外面	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ポリエステル樹脂塗装	60	本体内面	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	—	—	鋼製排水溝 内外面	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ナイロンコーティング (ナイロン12)	300	<p>●亜鉛めっきの仕様を変更する。</p>
部位	亜鉛めっき仕様			塗装仕様																																																									
	種類	付着量 (g/m ²)	表面処理	種類	膜厚 (μm)																																																								
本体外面	溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ポリエステル樹脂塗装	60																																																								
本体内面	溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	—	—																																																								
鋼製排水溝 内外面	溶融亜鉛アルミニウム マグネシウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ナイロンコーティング (ナイロン12)	300																																																								
部位	亜鉛めっき仕様			塗装仕様																																																									
	種類	付着量 (g/m ²)	表面処理	種類	膜厚 (μm)																																																								
本体外面	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ポリエステル樹脂塗装	60																																																								
本体内面	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	—	—																																																								
鋼製排水溝 内外面	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき	350	脱脂, リン酸亜鉛処理	熱硬化性ナイロンコーティング (ナイロン12)	300																																																								